

令和5年度 学校評価実施報告書

学校番号 51 学校名 千葉県立松戸六実高等学校 課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>① 学校からの情報発信を充実させるため、学校ホームページを見やすく整理し、内容の更新に努めた。学校行事や部活動がコロナ前に戻り、活動報告が増えたため更新回数が増加した。</p> <p>② 地域の夏祭り、子育てイベント、ボランティア活動への参加をとおり、地域連携を推進することができた。</p> <p>③ 学校評価アンケートにおける業務改善に関する肯定的回答は、昨年度とほぼ同じ40%であるが業務の効率化に向けて、会議でのペーパーレス化を推進するなどICTの活用に取り組んでいる。</p>	<p>① 保護者のホームページに関する学校評価アンケートの肯定的回答は若干だが増加した。学校の特色のアピールを進めていくためにも、より一層のホームページの充実、情報提供を推し進める行う必要がある。</p> <p>② 地域連携から得た生徒の教育的効果は高く、地域からも高い評価を得ることができた。更に様々な交流の体験から、生徒、職員の地域連携に対する意識を高めていく。</p> <p>③ 今後もICTの有効活用に取り組み、業務の効率化、ペーパーレス化を推進すると同時に職員の意識改革をより一層推進する。</p>
学習活動	<p>① 学校評価アンケートの結果によると、生徒の82%が「授業は分かりやすく、学習指導に満足している」と回答している。また職員の86.6%が「生徒が『授業が分かりやすく、学習指導に満足している』と感じている」と答えている。一方で、「家庭学習の習慣が身についている」と答えた生徒は45.2%と昨年度の56.6%を大きく下回っている。</p> <p>② 悉皆研修対象職員を中心に授業研究を実施し授業力向上を図った。</p> <p>③ 1年生の教室にプロジェクターを設置した。また、生徒のスマートフォン、端末と校内のwi-fiの接続がほぼ完了し、ICTを活用した授業に向けての環境整備が進んでいる。</p>	<p>① 1年生の教室へのプロジェクター設置等によりICT機器の活用が各教科で進んでおり、授業への満足度の向上につながっている。家庭学習の習慣の定着を図るため、現在活用しているスタディサプリのより効果的な活用を研究するなど家庭学習の習慣化を促進させる。</p> <p>② ICTを活用した授業研究等、若手教員研修チームによる研究授業や校内での授業参観を充実させる。実践的な研修の機会として相互授業参観期間を設け、授業力の向上を図る。</p> <p>③ 「一人一台PC100%」を達成し、ICTの効果的な活用について改善を進める。全教科でのICTを活用した授業実践を目指す。</p>
生徒指導	<p>① 学年所属の教育相談・特別支援教育コーディネーターを中心に生徒の情報を共有するための教育相談情報交換会を年4回実施。全職員での情報共有を図った。また、SCIによる教育相談職員研修会を実施した。</p> <p>② 学期ごとにいじめアンケートを実施した。実施後すぐに、いじめ防止対策委員会にて結果を確認し学校全体でいじめの早期発見、早期対応を図った。</p> <p>③ 通年で遅刻指導を実施した。月1回警察と協力し「マナーアップキャンペーン」を行い、交通安全指導を定期的に実施した。</p> <p>④ コロナが5類に移行した後も、保健厚生部を中心に基本的な感染予防対策について指導を継続した。学校行事の前後や考査前等、重点的な予防対策指導を実施し、学年閉鎖や学級閉鎖はあったものの、最小限に留めることができた。</p>	<p>① 入学する生徒の状況も年々変化しているということを見、全職員が教育相談情報交換会に参加するよう働きかける。また、職員間での生徒の情報共有を促進し、担任だけに負担をかけることのない生徒支援の形を確立させる。</p> <p>② 今後も、アンケートの即日確認、迅速対応を行う。学校全体でいじめの早期発見、早期対応に努める。</p> <p>③ 引き続き、遅刻指導、交通安全指導を続ける。基本的生活習慣の確立と生徒の自己管理能力の育成に取り組む。</p> <p>④ 今後も状況に応じた感染予防対策を講じる。健康観察の継続は心身の健康を維持するために不可欠なものであり、自主的に健康観察をする習慣を身に付けさせるよう取り組む。</p>

<p>① 進路説明会、進路ガイダンスについては、年間計画に基づき、各学年2回ずつ実施し、それぞれの段階で必要な情報の提供や生徒の希望状況の把握を進めた。増加傾向にある公務員志望者に対応するため、公務員ガイダンスや放課後の補習などを、年間を通して実施した。医療系への進学を希望する生徒には個別でガイダンスを実施し、集団面接対策などの指導を行った。コロナ前の状況にほぼ戻り、外来講師を招聘しガイダンスを実施することができた。</p> <p>② インターンシップについては、夏休み中に保育分野で実施した。小学校でのインターンシップについては、来年度からの再開にむけて準備を進めている。</p> <p>③ 松戸市主催の子供向けの夏祭りボランティアに約20名の生徒が参加した。また、地区の高齢者の食事会ボランティアにもJRC部の生徒が参加した。</p>	<p>① 進路選択の多様化が進み、個別最適化された指導が必要となる場面が多くなってきたことを鑑み、生徒の状況に応じた形式等を検討する。また、ICTを有効活用し、生徒の様々な可能性の伸長を促す。</p> <p>② インターンシップについては、ほぼコロナ禍前の形で実施することができた。近隣の保育園に協力をいただき、希望する生徒全員が保育実習に参加することができた。小学校でのインターンシップは本校の特色ある取り組みであり、来年度からの再開を目指し、依頼する小学校と具体的な日程を調整し、計画を具体化させる。</p> <p>③ ボランティア活動への参加により、生徒の視野が広がり、キャリア教育にもつながっていく。ボランティアに関する情報を収集し、積極的な実践につなげたい。また、新型コロナウイルス感染症により中止となっている松戸特別支援学校へのボランティア活動についても、再開できるよう検討したい。</p>
---	---

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
学校経営	<p>① ホームページの更新回数が増え、内容も充実させることは、学校のPRのためにもとても有効である。中学生は思いのほか、学校のホームページを見ている。</p> <p>② 地域の行事に参加することで、松戸六実高校の生徒の良さをアピールできる。</p> <p>③ 先生の働き方改革は喫緊の課題。少しずつでも良いから、効率の良い働き方ができるような取り組みが必要。</p>	<p>① 今後も、学校ホームページの充実を図る。動画配信等も検討したい。</p> <p>② 地域からのボランティアの要請にできるだけこたえていく。現在はJRC部が中心となっているが、多くの生徒に情報が行き渡るような仕組みを工夫する。</p> <p>③ 今後も、ICTの活用に積極的に取り組み、働き方改革の一層の推進を図る。</p>
学習活動	<p>① 学校評価アンケートについて。「家庭学習」の概念について学校と生徒間の認識が異なるのではないかと考えられる。</p> <p>② 小学生からICTに触れている現状を鑑み、高等学校でICT活用が後退しないように工夫して欲しい。</p> <p>③ 今後も、生徒が活用しやすいツールを充実させる等、誰もがICTを使えるような環境整備に努めて欲しい。</p>	<p>① 来年度の学校評価については、「家庭学習」の概念を確認する必要がある。生徒と職員の認識のずれを是正する。</p> <p>② 職員研修を充実させ、多くの職員がICTを活用した授業を展開できるように努力する。</p> <p>③ 「一人一台PC100%」を達成し、ICTの効果的な活用について改善を進める。全教科でのICTを活用した授業実践が展開できるよう、大規模改修の進捗状況を踏まえながら、環境整備を継続する。</p>
生徒指導	<p>① 多様性の時代であり、様々な背景を持つ生徒が入学してくる現状を踏まえ、教育相談研修会等で情報共有する等、継続して欲しい。</p> <p>② いじめの早期発見は、学校としての重要課題である。アンケート実施後、すぐに対応することで、いじめを芽のうちから発見し、対処することができる。今後も継続して欲しい。</p> <p>③ 自転車のマナー等、気になることはある。今後も、警察との連携を継続し、粘り強い指導が必要。</p> <p>④ コロナが5類に移行し、感染症への対応がだいぶ軽くなったが、危機感を持って感染症対策を継続していることで、感染の広がりをおさえられている。</p>	<p>① 全職員で生徒の情報を共有し、全職員で対応することができるよう、研修会等を充実させる。</p> <p>② 今後も、アンケートの即日確認、迅速対応を行う。学校全体でいじめの早期発見、早期対応に努める。</p> <p>③ 警察との連携を継続する。自転車のマナーについての地域からの苦情をなくすこと、自転車による交通事故をなくすことに努める。</p> <p>④ 今後も状況に応じた感染予防対策を講じ、学校行事等が安全に実施できるよう努力する。</p>
キャリア教育	<p>① 様々な進路希望を実現できるよう、今後も進路説明会、進路ガイダンスを実施して欲しい。</p> <p>② 学校の先生希望者が増えるよう、来年度はぜひ、小学校でのインターンシップが実現するよう、計画を進めて欲しい。</p> <p>③ 松戸六実の生徒が地域のボランティアに参加することで、たくさんの人が喜ぶ。ぜひ、ボランティア活動の充実を目指して欲しい。</p>	<p>① 生徒の状況に応じた方法を検討する。ICTを有効活用し、生徒の様々な可能性の伸長を促す。</p> <p>② 本校の特色ある取り組みのひとつである小学校でのインターンシップは、来年度からの再開を目指し、依頼する小学校と具体的な日程を調整し、計画を具体化させる。</p> <p>③ ボランティア活動に関する情報を収集し、積極的な実践につなげる。校内での情報共有の方法について検討する。</p>